

令和3年度 学校評価における自己評価について(報告)

認定こども園 鳥取第一幼稚園

1 学校の教育目標

『豊かな心をもち生き生きと遊ぶ子ども』

研究主題 子どもの健やかな身体づくりを目指した保育のあり方を考える
～しなやかな心と体の発達につながる遊びを考える～

研究の視点 ・子どもの実態を把握し、育てたい子どもの姿や身につけたい力につながる遊びを考える
・子ども達が主体的に活動に取り組むための環境や、保育教諭の援助のあり方を考える

2 本年度に定めた、重点目標や計画をもとに設定した、具体的な目標や計画

- 新型コロナウイルス感染症対策に配慮した教育・保育活動を行う
行事の取り組みも、保護者の理解と協力を得ながら進めていくようにし、園と家庭の両方で子ども達の育ちを応援していく
- 研究主題にそった研究保育を行い、お互いの保育を見て、評価や研究討議し、子どもの育てたい力につなげていく
- 特別支援を必要とする子どもを、クラスを中心に据えた保育のあり方を考える

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目		理由
(1)教育目標の達成	A	<ul style="list-style-type: none">・いろいろな活動や遊びに興味関心がもてる環境作りに努めてきた。活動に主体的に参加し、人とかかわることを楽しむ姿が見られた。・個性や発達段階をふまえ、一人一人の良さを発揮できるようにしたり、頑張っている姿を認めることで、子ども達は自信をもち、自分で考えて行動する力が育ってきた。・しなやかな心と体をもつ子どもを目指し、子ども達の実態、興味や関心の把握に努めながら、教材研究や活動の流れについて職員間で語り合った。教育内容の充実につながっていったが、来年度も継続して取り組んでいきたいと思う。
(2)重点目標の達成	B	<ul style="list-style-type: none">・鳥取市からの通知をふまえ、衛生面の強化をしながら、保育活動を進めてきた。今まで大切にしてきた教育の保障を考え、学年で話し合いながら、取り組んできた。・今年度は3学期に入ってから、新型コロナウイルス感染拡大により、保育活動や保護者参加の制限、休園対応をすることもあり、行事の大幅な変更や計画の見直しをすることとなった。そのような状況下でも、子ども達が様々な経験をし、進級、就学に向けての意欲をみにつけられるように工夫をしてきた。・特別支援教育については、個々の育ち、そして、集団の育ちを見据えて、専門機関と連携しながら取り組むことができた。

(3)特色ある教育の達成	A	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動を通して表現すること、友達と力を合わせて作り上げていく過程を積み重ねてきた。運動会でのマーチング、音楽発表会での歌、合奏やダンスを披露し、たくさんの感動届け、高評価をいただいた。 毎月の誕生会と音楽交流(きらきらタイム)では、全園児と全職員がいろいろな方と出会う楽しみを感じ、心をワクワク、ウキウキさせながら、様々な音楽に触れてきた。その時を共有し豊かな心を育てる活動となった。 ホールや屋上庭園、日進小学校の校庭などのスペースを有効利用し、走ったり、ドッジボール、体操を行い、体づくりを心がけてきた。
(4)教育課程・教育計画	A	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階や季節感をふまえ、仲間とともに経験させたい内容や園児の興味関心に沿った活動を取り組んできた。 昨年度の反省をもとに、見直しをもって保育計画をたてながらクラスごとで、子ども達の思いを引き出し、主体的な遊びや活動を展開することができるように、計画を見直しながら取り組んだ。
(5)学級経営	A	<ul style="list-style-type: none"> 自分から元気な声で挨拶することが、自己の存在感を明らかにし、クラスの仲間意識を強めることとなった。 園児一人一人の心に寄り添い、家庭と信頼関係を築き、育ちに繋がる思いや願いを共有しながら、学級経営を行ってきた。 人との関わりを大切に、自分の思いを伝えること、相手の思いに気付くこと、話を聞いて行動する基礎作りを力を入れてきた。 年次の教育課程をもとに、担任がクラスづくりの目標をもって、保育を展開し、次年度に育ちをつなげていくことができた。
(6)保育内容	A	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの環境を整え、身体を動かして遊ぶことができる活動を設定し、年間通じて取り組んできた。 園児の遊びの興味・関心を探りながら、教師のねらいや意図に沿った環境を準備する努力をしてきた。また、一緒に遊びの環境を作りをしてきたことで、主体的に活動する姿が見られるようになった。
(7)保護者との連携 子育て支援	B	<ul style="list-style-type: none"> 園児の育ち、保護者の思いになって考えられる教職員として心がけてきた。 クラス便りやHP、連絡帳を通して、担任の思いや園児のつぶやき、教育の取り組みを、その時々保護者へ理解していただくよう発信してきた。しかし、担任により、個人差があったので、次年度は改善していきたい。 行事では、PTA役員の方と話し合い、園と共通理解をしながら、参加人数を制限したり、時間短縮をしたりしながら、行事の運営を行った。音楽発表会は、今年度もライブ配信を行い、好評であった。 3学期は、感染拡大により保育参観をはじめ、保護者参加が難しい状況であったため、HPでのアルバム画像、Youtubeでの配信等を行った。
(8)健康・安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理に対する話し合い・避難訓練や交通安全指導は計画的に行った。いろいろな想定が考え、連携を取り合い、臨機応変に最善の判断ができるようにしたい。子ども達も放送や保育教諭の話聞いて、落ち着いて避難することが身についてきた。 感染症予防や消毒の対応が出来るよう、日頃から連携をとってきたが、環境整備をより強化したいと思う。 手洗い・うがいの励行・消毒は、年間通じて徹底できた。マスクの着用、備蓄の協力もあり、定着してきた。

(9)特別支援教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関との連携を密にすることで、より具体的な取り組みを行う保育を心掛けた。 ・加配職員と担任が連携を取り、指導の在り方について、その都度話し合いながら進めていくことができた。保護者からも信頼をいただきながら、進級、就学につなげることができた。 ・園の教職員みんなで、語る会をもち、同じ思いで接して、育ちを促していくことができたと感じている。次年度に引き継いでいきたい。
(10)組織運営・園運営	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で、報告連絡相談を心掛け、日々の保育でヒヤリハットの場面を共有し、話し合い連携を心がけてきた。 ・園全体で、子どもを育てていこうとする意識が高い。“出来る人が出来ることを出来るように”を合言葉に、先輩は後輩を育てる義務がある。後輩は先輩の指導を素直に受け育とうと努力している姿が見られた。 ・今後も経験の差はあるが、自分の仕事分担の責任をもち、お互いが助け合う運営が構築できるようにしていきたい。
(11)研修	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、新しい研究主題を設定し、研究の取り組みについて共通理解をし、研究保育を実施してきた。お互いの保育を見合い、田の字法で討議を行った。本時までの流れや環境づくり、育ちの見取りを行い、保育の資質向上につなげていった。 ・研究会の時間の確保と、討議内容の充実を図るようにすることが今後も課題である。 ・外部研修後に、報告会をする時間の確保が難しく、情報を共有することが、なかなかできなかった。 ・園内リトミック研修はよかった。経験のある先生の手本は勉強になった。 ・鳥取幼稚園教育の柱は、音楽教育である。よって、“リトミック”“マーチング”の研修は、これからも強化していきたい。
(12)預かり保育	B	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児がかかわり合える大切な時間と場所であるが、感染症対応により、学年別での保育、担当職員も預かり保育担当に加えて担任も配置した。担任の仕事量と時間の調節は難しかったが、園児の安全は確保できたと思う。 ・預かり担当職員と担任が相互に連携を取り、それぞれの生活の様子の引き継ぎができるように努めていった。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が信頼し大事なお子様を預けてくださる安全で安心な幼稚園であること、園児が毎日喜んで登園してくれる幼稚園であることを幼稚園経営に置き、大切な毎日を全園児の幸せと育ちを願い、全職員で誠心誠意努めてきた。その成果が、保護者アンケートでも、“先生方が話しやすく、担任以外の先生からも子どもの成長を教えてもらう”“一人一人に向き合い、個々に応じた援助をしてもらっている”“一人一人が発揮できる教育をしている”等の評価をいただき、子ども達の成長を園と家庭で共有することができた。 ・園の特色である音楽教育の充実、ホール・ホール下園庭・屋上庭園の環境での遊びの成果、年次をつなげる教育課程とおして、子ども達の大きな育ちを感じることができた。 ・集団の中で、好きな場所があり、好きな先生がいて、気の合う友達もでき、遊びをとおして自己発揮できる“人とのかかわり”や、友達や先生と心と力を合わせて活動することの楽しさ、達成感を学ぶ教育ができた。 ・特別支援を要する園児が、園の中で、自分のできる力を集団の中で発揮したり、周りの友達も思いやりの気持ちを身に付けていった。 ・保護者の方が、園児の応援団としてバックアップしてくださり、新型コロナウイルス感染対策をしながら、保育活動やPTA活動ができたことは感謝である。 教育・保育活動については、今まで大切にしてきたことを保障していきたいという思いから、工夫しながら取り組んできた。しかし、年度末は、鳥取市の感染拡大に伴い、本園でも休園や行事の延期や中止を余儀なくされた。そのような中、保護者の方への披露の仕方を教職員で検討し、動画配信をする等の代替行事を行った。 しかし、園での友達との生活や遊びの様子を見ていただく機会が少なかつたため、来年度は、保護者の方が、参加して園の様子を見ていただく機会を工夫していきたいと思う。

◎ 評価結果

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
危機管理・衛生環境	・教職員一人一人が、危機管理意識、感染症対策意識の向上を図る。
質の高い音楽教育	・音楽教室教諭を中心に、リミック指導・指導計画を職員に指導し、指導力向上につなげていく。 ・園外での研修に参加し、自己研鑽の場をもつ。
職員研修	・研究主題にそった、園内研究保育の仕方(時間の確保・討議の視点)を検討する。 ・県の教育保育研究大会の発表の準備を行う。
情報発信 事務処理の効率化	・ホームページをリニューアルし、園の情報発信の充実を図る。 ・ICT導入を導入し、スムーズで正確な情報の発信、担任の事務処理の効率化へつなげていく。